

テーマ	『関係機関と学校の円滑な連携』
-----	-----------------

1 達成に向けた手立て

<p>関係機関との連携方法を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市のSSWと県のSSWが協働で、他機関連携の場を持つ。 ・市教委主導で会場は市役所とし、市単位で他機関連携を実施する。 ・市教委が地域共生センターやこども家庭課等の関係機関を招聘し、SSWとの連携を行う。

2 取組の成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ 配置初年度のSSWがベテランのSSWと連携できる場があり、困ったことを相談しやすかった。 ○ 関係機関と顔の見える関係をつくり、こまめに連絡が取りやすい関係をつくっておくことで、対応が必要な時に迅速に対応できた。 ○ 思春期の女子児童がいる家庭に、母親の交際相手が入ることになった際、日頃から連携が取れていたため、すぐに行政担当者が男性に会いに行く段取りを組むことができた。 ○ 学校だけでは説得力がない場合に、行政と連携ができていて、保護者がスムーズに動いてくれることがあった。 ○ 社会的養護から復帰した際に、関係機関と学校とが密に連携を取り、ケース会議を繰り返すことができた。その結果、長期的な背景を学校が把握でき、関係機関それぞれが役割分担して家庭や児童生徒に対応することができた。それにより一時は登校渋りが見られたものの、最終的にほぼ遅刻や欠席をすることなく登校できる状態になった。保護者が行政に対して不満を持っていた際には、SSWが、良い緩衝材となって両者を繋ぐことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係機関とSSWの連絡会に、様々な機関が参加してくれるようになったが、規模が大きくなりすぎて上手く運営できない時があった。 ● 市町の規模が小さい地域では、担当者一人が担う役割が大きすぎ、抱え込みのような状態になって組織的に関わるのが難しい時があった。 ● 学校が関係機関の役割等の認識がなく、共通認識が不十分な時があった。

3 次年度に向けて

<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担をしっかりと決めて、関係機関と相互に理解を深める。 ・情報共有を頻繁に行う。 ・どの機関がどのような役割を担っているのか十分理解し、校内でも共有する。 ・地域にどんな資源があって、どのような役割をもってくれるのか調べておく必要がある。 ・学校が関わる期間は限定的であるため、児童生徒本人の人生を長期的なスパンで考え、進学して終わりにならないようにするために、関係機関と連携していく必要がある。 ・役割分担に加えて、情報共有をスムーズにする体制づくりが必要である。
